

2. 生育調節剤

薬 剤 名 ● 種類名・剤型 ○ 商品名	有効成分および 含 有 率	委 託 会 社 名	対 象 と す る		使用 場 面 (処理方法)	試 験 場 所	前 回 判 定	今 回 判 定	判 定 理 由 ・ 内 容 ・ そ の 他
			雑 草 名	牧 草 名					
(1) ノキュライ ズド種子 ● 根粒菌・ 接種種子 ○ Noculiz ed Seed	活性根粒菌 (Rhizobium Molilote) 接種種子	日本飼料 作物種子 協会北海 道支部	—	フルファ ルファ	根粒菌接種 による効果 の牧草生育 促進確認。	北海道立中 央・根釧・北 見・天北農 試, 滝川・ 新得畜試, (6)	継	継	(試験年次不足) 効果について再検 討。

II. 「植調」第12巻2号掲載, 昭和51年度同上概要の訂正判定

薬 剤 名 ● 種類名・剤型 ○ 商品名	有効成分および 含 有 率	委 託 会 社 名	対 象 と す る		使用 場 面 (処理方法)	試 験 場 所	前 回 判 定	今 回 判 定	判 定 理 由 ・ 内 容 ・ そ の 他
			雑 草 名	牧 草 名					
除草剤 GW-7 水溶 ● MH ○ ヒロバト ール	マレイン酸ヒド ラジッドコリン 塩……………58% (酸として30%)	三菱瓦斯 化 学	ギンギン, フキ,	牧野草地	200~300 ml/a, 秋期 茎葉処理,	北海道立根 釧・北見・ 天北農試, 石川県畜試, 大分県畜試, (5)	実 ・ 継	実 ・ 継	※ 実:[ギンギン対象] 秋期降霜約10日前, 85~170ml/a, 雑 草茎葉全面または スポット処理。 継:[ギンギン対象] 暖地における処理 時期および春処理 について。 [フキ対象](効果 不十分)処理時期, 濃度について再検 討。

注). ※ 枠内部分を訂正。

外 国 文 献 抄 録

牧草の収量と蛋白質含量に対する除草剤の影
響

Grasses

Agronomy Journal Vol 69, 846 -
851, 1977

BAUR J. R., R. W. BOWEY and E. C.
HOLT*

5種類の牧草に4種の除草剤で処理し, 牧草
の生産性と蛋白質含量に対する影響をしらべた。

Effect of Herbicides on Production
and Protein Levels in Pasture

材料並びに試験方法

* Plant Physiologist and agronomist, Southern Region, ARS-USDA, and Professor, Soil and
Crop Science Dep., Texas A & S Univ., College Station TX 77843

牧草の種類——kleingrass (kl. g. と略す), Buffelgras (Bu. g. と略す), Buffel x Birdwood [(Bu x Bi.) Fi と略す], Common bermudagrass (Com. b. g. と略す), Coastal bermudagrass (Coas. b. g. と略す).

これらの牧草は, Texas A & M 大学農場および近くの牧場で育てられた。

除草剤——picloram, glyphosate, tebuthiuron および 2, 4-D とし, 0.4, 1.1, 2.2 kg/ha を, 1974 年 4/1, 6/5, 1975 年 3/6 さんぷした。1974 年には, 処理後 30, 100 日で収穫した。100 日のものは, 30 日収穫の再生草である。1975 年には, 100 日で収穫した。収穫した生草の中から 50~70g をとり, 蛋白質測定のため直ちに冷凍し, 残りの生草を 100℃ で 48 hr 乾燥し, 乾重から生産量を計算した。

除草剤処理時期については, 3 月は牧草がまだ休眠, 4 月は生育初期, 7 月は生育盛期を代表する。収穫期については, 処理後 30 日は除草剤の直接の影響をしらべ, 100 日後の収穫では, 再生草に対する 2 次的影響をしらべることになる。

結果の概要

kl. g.——glyphosate 1.1 kg, 2.2 kg を 4 月に処理したものが減収した。glyphosate の 2.2 kg および tebuthiuron 1.1, 2.2 kg 処理が再生に影響した。glyphosate は, 蛋白の含量に変化を与えた。4 月, 7 月に 1.1, 2.2 kg で処理して, 30 日後に蛋白の増加を認めた。同じく tebuthiuron 1.1 kg 7 月処理で, 再生草の蛋白の増加が見られた。picloram 0.4 kg 4 月処理は, 蛋白含量を低下した。

Bu. g.——4 月, 7 月に処理した picloram, 2, 4-D, tebuthiuron では, 減収した。

3 月処理の tebuthiuron で, 減収した。

glyphosate で生育初期に処理したものは著しく減収し, 再生にも影響した。glyphosate 2.2 kg 4 月, 1.1, 0.4 kg 7 月および tebuthiuron 1.1, 0.4 kg 7 月処理では, 蛋白質の増加が見られた。

tebuthiuron 0.4 kg, glyphosate 1.1, 2.2 kg 7 月処理では, 再生草の蛋白質の減少が見られた。

(Bu. x Bi.) Fi——2, 4-D の 3 月処理では生産が高まったが, これは広葉 1 年生雑草防除の影響であろう。picloram, tebuthiuron, 2, 4-D の 4 月, 7 月処理は影響なし。4 月に 0.4 kg 以上の glyphosate で処理したものは, 原生および再生草の収量を著しく減じた。picloram, tebuthiuron, 2, 4-D の 4 月処理では, 再生草の蛋白質を減少した。

Coas. b. g.——2, 4-D 3 月 1.1, 2.2 kg, 4 月 2.2 kg, glyphosate の 3 月処理では, 収量が増加した。雑草防除の効果と考えられる。

picloram, glyphosate の 4 月処理では, 再生草に影響ないが, 7 月処理では著しく減収した。本草種の picloram に対する反応は, すでに知られている。蛋白質については, picloram は影響なく, tebuthiuron 4 月は原生草に, 7 月は再生草で増加を見た。2, 4-D では, 原生草から再生草まで増加した。glyphosate の 7 月処理では原生草に影響なく, 再生草で増加した。

Com. b. g.——picloram 3 月, tebuthiuron 3 月, 6 月処理のものは, 減収を示した。

以上の結果から, 次のような傾向が看取できるようである。

①除草剤に非抵抗性で, 減収を示すものは, 蛋白含量が増加している。抵抗性で収量に影響

ない場合、蛋白含量も変化が見られない。ただし、Coas. b. g. に対する picloram, Bu. g. に対する glyphosate の4月処理, (Bu.xBi.) Fi に対する picloram, tebuthiuron および 2, 4-D 処理では収量に影響なかったが、蛋白質レ

ベルは低下した。

②全体を通じて、2, 4-D が最も安全な除草剤と認められる。

〔抄録者：日本植物調節剤研究協会 天辰克己〕

水田中期除草剤の実力派！



●水田の中期除草に

アピロサン®粒剤

●広範囲の水田雑草に効果がきわめて優れた、実力のある中期除草剤です。

●水田雑草の総合防除に

ワイダー®粒剤

●1年生雑草と多年生雑草を同時に防除できる、水田雑草の総合防除剤です。

*アピロサン粒剤・ワイダー粒剤ともに、低温時に使用しても薬害の心配がなく安全です。

アピロサンはスイス国、チバガイギー・リミテッドの登録商標

ノビエからホタルイまで

好評
発売中

水田初期除草剤

ショウロンM®粒剤

®：昭和電工 登録商標

特長 ◎ホタルイに卓効 ◎適用地帯が広い
◎イネに安全 ◎高い安全性

ショウロンM普及会

クミアイ化学工業株式会社 昭和電工株式会社
三井東圧化学株式会社 三井東圧農業株式会社